

A-70 アノイリナーゼ含有食品摂取時の消化管内ビタミンB₁量について(第3報)

郡山女大家政 ○鈴木真寿子 奇藤洋子

目的 アノイリナーゼ含有食品を摂取する時、吸収前に食物中のビタミンB₁がどの程度破壊されるかを明らかにするため動物実験を行ない、生しじみ摂取時の腸管内容物中B₁は茹でしじみ摂取時の約1/2に減少し、またその破壊は食物の胃滞留中におこることを認め報告した。そこで今回は更に生しじみ摂取時の消化管内容物と共に、肝臓、血液中および尿中B₁量を測定して、アノイリナーゼ含有食品摂取時に食品中のビタミンB₁は消化管内で著るしく破壊され、利用されないことを確認する。

方法 ウィスター系雄白ネズミを4匹ずつ3群に分け、10日間B₁添加飼料で *meal feeding* し、と殺5日前から飼料に生あるいは茹でしじみを混合して投与した。と殺後、胃、小腸の内容物は0.05N-HClで洗い出し、尿はと殺前3日間採取し、また肝臓、血液は藤原の方法に従って処理し、それぞれのB₁量をチオクロム蛍光法により測定した。

結果 胃および小腸内容物中B₁量は生しじみ摂取群が非摂取および茹でしじみ摂取群に比較して極端に少なく、前回の結果と同様有意差が認められた。肝臓1g中B₁量も生しじみ摂取群が他の2群に比較して少なかったが、血液中B₁量は3群ともほぼ等しい値を示した。尿中B₁量は3日間とも生しじみ摂取群は2 μ g/日前後であるのに対し、他の2群は100 μ g/日前後で、生しじみ摂取群のB₁吸収量が少なかったことを示唆している。以上の結果から、生しじみ摂取群の摂取食品中のB₁は他の群に比較して速やかに吸収され、そのために消化管中B₁量が少なかったと推えられよう。